

刊行にあたって

いつだったか、「説明しない上司、質問しない部下」という記事を雑誌で読んだことがありました。要は、上司は「見て学べ」と考えていて、部下は「言ってくれなきゃわからない」という状況が、組織の発展を遅くしているという見解でした。もちろん、あらゆる角度からみれば、どの意見にもそれなりの理由はあると思います。ですが、どういう理由であれ、結果として組織の発展を遅らせているならば、何かしらの解決策を考えなければなりません。

歯科の治療に関して言えば、ベースとなる手技のもとにアドバンスなテクニックがあり、またその上にはそれらの複合した手技が求められます。さまざまな治療分野のベース部分をきちんと理解することはとても重要なことなのですが、卒後の研修環境においては研修内容に過不足があることもあり、また先輩や院長に何を質問したらよいかさえわからないケースもあると思います。そんなときの一つの羅針盤として、今回は33の実習項目についてエムズ歯科クリニックの指導内容をまとめてみました。

口腔外科では、一番の基本は縫合だと思っています。これはあらゆる外科手技の要だと思っていますので多めに取り上げています。義歯においては、基本的な流れの確認からクラスプ交換やT-condのコツをまとめてあります。インプラントでは、基本的な治療の流れを中心にソケットリフトやサイナスリフトの要点についてまとめました。

これらの実習コンテンツに使用した模型は、私の所属するMID-Gというスタディーグループから依頼し、株式会社ニッシンから『GPアカデミー』という名称で毎月1種類のテキストと模型セットが送られてくるようにプログラムされています。ご興味のある方はインターネットで検索してみてください。皆さんが日常臨床の基礎を学ぶ一助として、本書やGPアカデミーがその傍らにあることは幸甚の至りであります。

エムズ歯科クリニック
荒井昌海